

特 集

2017年1月11日 新春トップセミナー

開会挨拶

(一社) 生産技術振興協会 理事長 西本 和俊

皆様、新年明けましておめでとうございます。生産技術振興協会理事長の西本でございます。本日は新春早々のお忙しい中、本セミナーにご参加いただき誠にありがとうございます。本日はなんと240名の多数ご参加をいただき、主催者として非常にうれしく存じます。また、本日のセミナーで講演を引き受けていただきました大阪大学総長の西尾章次郎先生、関西経済同友会代表幹事の蔭山秀一様に対し、厚く御礼を申し上げます。2017年がいよいよスタートすることになりますが、皆様におかれましては、この時期に今年どのように事業を展開していこうかと、いろいろ考えられていることだろうと思われまます。先の見えない時代と言われてずいぶん年月が経ちますが、世界に目を転じますと昨年もイギリスのEU離脱の決定、アメリカではトランプ氏の大統領当選、韓国では現職大統領が辞任に追い込まれるなど、今や何が起こるか分からない時代が到来していると世間では言われています。しかし一方では、こうした事象はそれまであまり分からなかった変化がある日突然顕在化しただけで、ある意味でこうした変化は必然だったという見方もあります。

話は飛びますが、「ゆで蛙」の話を紹介したいと思います。生きた蛙をいかに茹でるかという話です。料理のために茹でるのか、何のために茹でるのかの話は別として、蛙を茹でる際に熱い湯に蛙をいきなり放り込むと、蛙はびっくりして逃げてしまうため、蛙を茹でられません。しかし、まず冷たい水の中に入れ、ゆっくり加熱していくと、蛙はその温度変化にあまり気づかず、最後にとうとう茹であがってしまうという話です。これは身の回りに起こるいろいろな事象に対して、敏感に動かなければ、いずれ取り



理事長 西本 和俊

返しのつかない事象になってしまうという、1つの例え話であります。先の見えない時代になり、先行きはどうかという、先を見通す力が重要性を増してきていると思います。その際には身の回りに起こる事象に敏感になって、新鮮で正確な情報をタイムリーに得ることがますます重要になってきていると思います。本日の新春セミナーではこうしたことを念頭に置きまして、大阪大学総長の西尾先生から将来の日本社会が目指す1つの方向であるAI、ビッグデータを活用した「超スマート社会」をテーマにして講演していただきます。また、大阪では統合型リゾート施設(IR)や大阪万博誘致の動きがあります。関西経済の再活性化に向けた動きに対してどのように取り組んでいくのかについて、関西経済同友会の代表幹事の蔭山様から講演をいただきます。本日のセミナーが皆様方の業務や仕事含め今後の方針を決める際の、1つの指針になることができますなら、主催者として望外の喜びであります。

最後になりましたが、本日のセミナー開催に対してご協力をいただきました関係団体の方々に対し厚く御礼を申し上げまして、私の開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。